

2024年度けいじゅヘルスケアシステム業績集発刊にあたって

新型コロナウイルス禍の影響が冷めやらぬ2024年1月1日16:10にマグニチュード7.6の巨大地震が能登半島を襲った。恵寿総合病院のある七尾市も震度6強に見舞われ、震源に近い能登北部の施設群をはじめ、七尾市、中能登町の施設群もすべて大地震に襲われ甚大な損害を被った。

これまで、BCM/BCP（Business Continuity Management / Business Continuity Plan）として、地盤改良、免震建築、水と電気の二重化、常用非常用熱源の高層化、屋上ヘリポート）などを整備してきた恵寿総合病院本館の被害は軽微で、能登の病院で唯一、フル機能を保った急性期病院として、その機能を発揮し、『能登の奇跡』として国会や多くのマスコミで取り上げられた。また、業務用スマートフォンなど本格的なDXが震災時に存分に機能した病院としても注目を浴びてきた。

一方、恵寿総合病院3病棟、5病棟の損害は大きく、その復旧には、2025年度末までかかる見込みである。その他、各施設の復旧も同様に、多くの時間と予算が必要な状況である。また、指定管理施設である石川県精育園の復旧は極めて遅く、県によるその方針決定に苛立つ毎日でもある。七尾市田鶴浜地区の田鶴浜診療所、鶴友苑、エレガントたつるはま、七尾市松百地区のふれあいの里は、甚大な構造的被害のため復旧を断念し、サービスを法人内の各施設で代替する方針の下で、閉鎖するという決断を下した。

震災対応で、多くの講演依頼や見学者を受け入れ、さらには天皇皇后両陛下がご臨席された「第20回ヘルシー・ソサエティー賞」受賞の栄誉を受けた。

このような震災後に、多くは自らも被災者である職員と共に震災で増えたニーズに応えながら、地域の医療・介護・福祉サービスを臨機応変の決断と知恵を絞り継続してきた。その上に、1億954万円以上の支援をいただいたクラウドファンディングの資金の一部活用して、9月の創立90周年記念と地域を元気づけることを目的とした『けいじゅフェスティバル』を開催し、1,000人以上の市民と共に復興を誓い合った。

また、働き方改革の流れと困難な従事者不足に対する解決策としてDXの流れも止めることなく突き進めてきた。RPAは130体以上のロボットとなり、12,000時間の時短に成功した。特に2024年度はわれわれにとって生成AI元年とも言え、AI問診、議事録や書類の作成ばかりではなく、電子カルテに生成AIによる診療サマリーや看護サマリー作成機能を実装した。これらによって、生産性向上やタスクシフトによる業務負担軽減を実現し、「日本一働きやすい病院アワード2024」で大賞の栄誉にも輝いた。

2024年は、このような困難な中にありながら、また、物価高騰の中にありながら、安定した経営ができたことは、「ATM（明るく楽しく前向きに）」の年度方針の下、ひとえにわれわれ職員たちの頑張りであったと確信したい。われわれのノウハウが震災からの復興がまだ遠い能登地区における医療・介護・福祉の再構築の核となれるよう今後もわれわれのポジションを強化していきたい。



2025年6月吉日

けいじゅヘルスケアシステム 理事長

神野 正樹